

さわやかな風と出会いの元気発信都市

長野県東御市を 紹介します



巨峰の王国まつり
マスコットキャラクター
巨ん太&ぷるる

長野県東御市は、小県郡東部町と北佐久郡北御牧村の2町村が合併して、平成16年4月1日に誕生しました。長野県の東部に位置し、北は上信越高原国立公園の浅間連峰を背に、中央に千曲川の清流、南に蓼科山を望む台地が広がる、自然に恵まれた美しい市です。

古くは木曾義仲の拳兵にはじまり、中世には海野氏をはじめ、称津氏、望月氏といった滋野一族による名馬の産地として統治されてきました。

夏はレンゲツツジ大群落や高山植物、冬はパウダースノーで名高い湯の丸高原、江戸時代の面影を今に残す海野宿、クルマミヤ巨峰の名産地としても知られています。陽あたりの良い気候を活かしたワイン特区などの新たな特産振興も期待されています。

交流のあゆみ

平成20年から、美郷町と東御市双方の友好都市である東京都大田区の呼びかけにより、大田区のJR蒲田駅西口を会場に「友好都市ふれあいひろば」が始まりました。特産品の紹介や観光スポットなどを、両市町が協力して東京都大田区のみなさんにPRし、互いに交流を深めました。

ふれあいひろばを介しての交流が続けていた平成23年10月15日、東京都大田区を会場として「災害時における相互応援に関する協定(防災協定)」を締結。両市町で大規模な災害が発生した場合、相互に協力することで被災地域の応急対策を円滑かつ迅速に実施することを目指すもので、応急物資の供給や被災者の一時受入などを明記しています。



市役所の位置

長野県東御市
281番地2
標高 533m
東経138度20分
北緯 36度21分

人口 31,268人
世帯数 11,661世帯
(平成25年2月1日現在)

面積 112.3 平方キロメートル

◆市の花(レンゲツツジ)

レンゲツツジは市内各地で見られるほど身近な花ですが、湯の丸高原のつじ平では6月下旬になると湯の丸山の山肌が朱色に染まるほどに見事に咲き誇ります。このレンゲツツジ群落は東御市の観光地の目玉として全国的にも有名で、市を代表するにふさわしい存在です。レンゲツツジ群落は、昭和31年5月15日に国の天然記念物に指定されています。



◆市の木(クルマミ)

クルマミは東御市では明治初めから導入され、大正時代には盛んに栽培されました。東御市は雨が少なく日当たりの良い地形に恵まれ、クルマミ栽培に最適な環境です。市内には原種木もあり、一般家庭でも古くから見られる身近な木です。



東御市とのこれから

今年2月6日から7日にかけては、松田町長、高橋猛町議会議長、近藤道哲商工会長と美郷町職員が東御市を訪問し、東御市役所や信州東御市振興公社運営の市内温泉施設、道の駅雷電くるみの里、「コミュニティFM」エフエムとうみなどを視察しました。今回の視察では、両市町の非常備蓄品の状況や災害時における情報発信の取り組みなどについての情報交換を行ったほか、相互の特産品販売や商工業分野での協力体制に関する協議などを行いました。こ

のときの様子について、東御市ホームページ内の市長ブログ「くるみの里から」で紹介されています。

また、2月15日から16日にかけて東御市の職員7名が美郷町を訪れて伝統行事「六郷のカマクラ」に参加したほか、町内の備蓄倉庫や観光施設を視察しました。

町では、東御市との交流をさらに活発にし、住民や事業者同士の交流につなげることで、両市町の地域活性化に結び付けていきます。



東御市のおいしい特産品

巨峰

長野県は、巨峰の生産量全国1位です。東御市における巨峰栽培は、基幹作物として昭和31年より取り組まれてきました。特に、昭和37年からの各種事業により、団地造成と巨峰部会を中心とした栽培技術の研究、共同出荷体制の推進などにより、全国有数の巨峰ブドウ産地となりました。現在も、統一した生産体制により品質管理を行っています。

降水量が少なく昼夜の温度差の大きい気候に育まれた極上の甘みは、全国でも高い人気を誇っています。



クルミ(シナノグルミ)

信州はクルミの産地としても有名ですが、長野県の中でも特に有名なのが東御市です。その第一歩は大正天皇のご即位記念として各家庭にクルミの苗木を各家庭に配ったことでした。優良系統を育成する品種改良を行うなどの取り組みを続け、東御市は日本を代表するクルミの産地としての地位を確立しています。

シナノグルミは実が大きく肉厚で、和洋菓子や家庭の食卓に幅広く使用されているのはもちろんですが、食べるのみにとどまらず、木の葉や皮で糸を染める「クルミ染め」、クルミの殻を灰にして混ぜた「クルミガラス」など、幅広く活用されています。



OH!LA!HO BEER(オラホビール)

1996年に誕生したOH!LA!HO BEER。「おらほ」とは、「私たちの」「私たちの地方の」というこの土地の方言からつけられています。国際ビール大賞、ジャパン・ビア・カップ、ジャパン・ビア・グランプリなど数々の賞を受賞するなど、その美味しさは国内・国外を問わずたくさんの人々に愛されています。



おすすめスポット

海野宿(うんのじゅく)

海野宿は寛永2年(1625年)に北国街道の宿駅として開設されました。中山道と北陸道を結ぶ街道で、北陸の諸大名の参勤交代や佐渡で採れた金の輸送など、江戸との交通に重要な役割を果たしていました。江戸時代の旅籠屋造りや茅葺屋根の建物と明治以降の堅牢な蚕室造りの建物とがよく調和して伝統的な家並みを形成し、昭和61年に「日本の道百選」に、翌62年には「重要伝統的建造物保存地区」に選定されました。



◆市の蝶(オオルリシジミ)

オオルリシジミは羽根の表面がルリ色の美しい蝶です。かつては青森県を北限として生息していましたが、近年ではいずれの地域でも絶滅もしくは激減し、長野県のごく限られた地域などに生息していることが知られています。

東御市では地域の方々が中心となって平成14年に「北御牧村のオオルリシジミを守る会(当時)」が設立され、地元農家や企業、小学生などと共に続けている



保護活動により、自然に舞う姿が見られるようになりました。平成17年12月1日には、東御市の天然記念物にも指定されています。